



## 在校生から 6 年生に感謝の気持ちを込めて ～ 6 年生を送る会～



【在校生や保護者の皆様に迎えられ入場する 6 年生】

2 月 18 日（水）6 年生を送る会を行いました。体育館には、多くの保護者の皆様にもお集まりいただき盛り上げていただきました。この日のために、在校生が 6 年生に感謝の気持ちを込めて準備してきた歌やダンス、ロールプレイでのふりかえりやメッセージなど心のこもったプレゼントが披露され、心温まる会となりました。

最後に 6 年生から、在校生にお礼の言葉や歌、パフォーマンスが披露され、これからの西小の活躍を願ったバトンが後輩たちに託されました。参加した在校生からは「自分たちでできることは全部できて楽しかったです！」「6 年生が楽しんでくれたらうれしい。」「来年は自分たちが 6 年生になるんだとあらためて思いました。」などの声を聞くことができました。子どもたちには 6 年生とともに西小で過ごす残り少ない時間を大切にしたいと思います。

## 桐生市立小中・義務教育学校特別支援学級 学習発表会

1 月 29 日（木）桐生文化会館小ホールで桐生市特別支援学級学習発表会が開催されました。西小からは、ひかり学級の児童の作品展示やダンスのステージ発表で参加しました。

絵画や工作作品は、どれも創造的で、見ていて楽しいものばかりでしたし、ステージ発表でのダンスでは、曲「風になりたい」にあわせて、ノリノリダンスを披露してくれ、保護者の方をはじめ、多くの観客を魅了するものとなりました。この日のためにがんばった子どもたちはもちろんですが、ご指導いただきました先生方にも感謝の気持ちで一杯です。



【西小児童の作品】

## 第2回学校評議委員会

2 月 13 日（金）第 2 回学校評議委員会（9 区区長、学校医、主任児童委員、同窓会長、PTA 会長で構成）を開催しました。会議では、学校から今年度の学校経営の状況（成果と課題）や学校評価アンケート結果について皆様に報告し、委員の皆様から学校へのご意見を伺い、次年度の学校経営に役立てるといったもので、毎回、貴重なご意見やご助言をいただいています。今回の協議で主に話題となったのは、①「家庭での学習時間（宿題の扱い）」、②「将来の夢や職業観（キャリア教育）」、③「相談体制」についてでした。①については、多様性や様々な価値観等の問題はあるが、公立学校としての児童に身につけてほしい知識・技能の基準を学校がもつこと。②は、児童に目標（夢）をもたせることで成長（努力）を促すことが大切であること。③は、学校との相談の前に保護者同士（時に地域）とのつながりをつくり、そこで相談し、解決を図ることが必要であること、などの意見をいただきました。次年度以降の学校経営の参考とさせていただきます。

### ＜お知らせ＞

右の QR コードから西小の Web ページをご覧くださいと、過去の「学校だより」等がご覧いただけます。





# 西小の取組紹介⑪

がんばっている西小の子どもたちや先生方を  
紹介します！

## 西公民館に作品展②

1月15日（木）からはじめた作品展ですが、2月下旬で終了します。お時間がある方は是非、西公民館まで足を運んでみてください。（作品は、2週間を目安に入れ替えて展示しています。）



なお、作品展場所には、感想BOXを用意しておりますので、子どもたちへのメッセージを寄せていただければ、学校で紹介させていただきます。メッセージは、子どもたちや先生方の励みになると思います。よろしくお願いします。

## たくさん本を借りましょう！図書委員会

2月3日（火）～5日（木）の3日間、図書委員会が、たくさん本を読んでもらうためのアイデアを考えて活動してくれました。



【プレゼントをつくる図書委員】

この期間に2冊以上本を借りると「くじ」を引くことができ、しおりや折り紙がもらえるといった素敵な企画です。西小の子どもたちの読書量は、市内でも上位ですが、今回の企画が本を借りるきっかけとなった子どもたちもいたように思います。読書離れが叫ばれている昨今ですが、スマホと違い読書は感性を育み、心に潤いを与えてくれるアイテムです。これからは親子で本に触れてみませんか？

## 西公民館作品展の感想紹介

1月15日～2月末まで西公民館で試験的に開催しています。急なお知らせにも関わらず、多くの保護者の皆様や地域の皆様に足を運んでいただきましたことに感謝申し上げます。

次年度以降の開催につきましては、今のところ未定ですが、ご意見やご感想等をいただければ幸いです。

「西小作品展」会場に設置しました感想BOXに寄せられた来場者の皆様からの感想の一部をご紹介します。

- どの作品もすばらしく上手です。見て楽しいです。
- 楽しませてくれてありがとう。
- 子どもたちの明るい色使いに元気をもらえました！
- 子どもたちの感性が色や線に反映され、とても豊かに感じます。自由な感性が伸びることを今後も願います。
- 「もちもちの木」かわいリトナカイ、へび、イヌ、トリ、シルエットのかわいいオオカミとてもかわいくてかっこいいです！色もカラフルで、とてもすてきです！

## 校長室から

### 「私のことなんて…何も分かっていないくせに…」

先日、終末期医療に従事する医師の講演を聞く機会がありました。「目の前にいる苦しんでいる人（死を目前とした人）に、穏やかな気持ちになってもらうためには、私たちはどのように関わるべきか？」という難しいテーマでした。講演の冒頭、講師の医師から私たちに「本当に苦しんでいる人の気持ちを理解できるでしょうか？」という言葉が投げかけられました。講師の答えは、「残念ながら置かれている状況が異なるため、その人の気持ちは（想像でしか）分からない。」とのことでした。

講師曰く、「大切なことは、私が（理解する）ではなく、相手が（私を理解者だと思ふこと）なのだ」そうです。私たちにはできることは、相手が伝えたいことをキャッチし、その言葉をさりげなく反復で返す。例えば、相手が「〇〇が辛い…」と言ってくれたら「〇〇が辛いんですね」といった具合だそうです。その際、私たちはよかれと思い解釈（あなたのためのアドバイス!）をつけてしまいますが、それは不要（時に逆効果）なこともあるのだそうです。相手が望んでいるのは、分かってくれる人（話を聞いてくれる人）がいること、そのような人がいるだけで真っ暗に思えた世界の中でも一つの明かりを見つけることができる。辛いことがあって苦しんでいても、自分のことを認めてくれる誰かの支え（理解）があると、人は一転して強くなれるのだそうです。

思春期を向かえ、悩みを抱えた子どもたちへの対応にも同様のことが言えると思います。私は、この研修会に参加して、多くの人たちが、「互いに相手の苦しみに気づく感性」を身に付けることができれば、きっとみんなが幸せな社会（Well-Being）を築く一歩になるのだと思いました。

